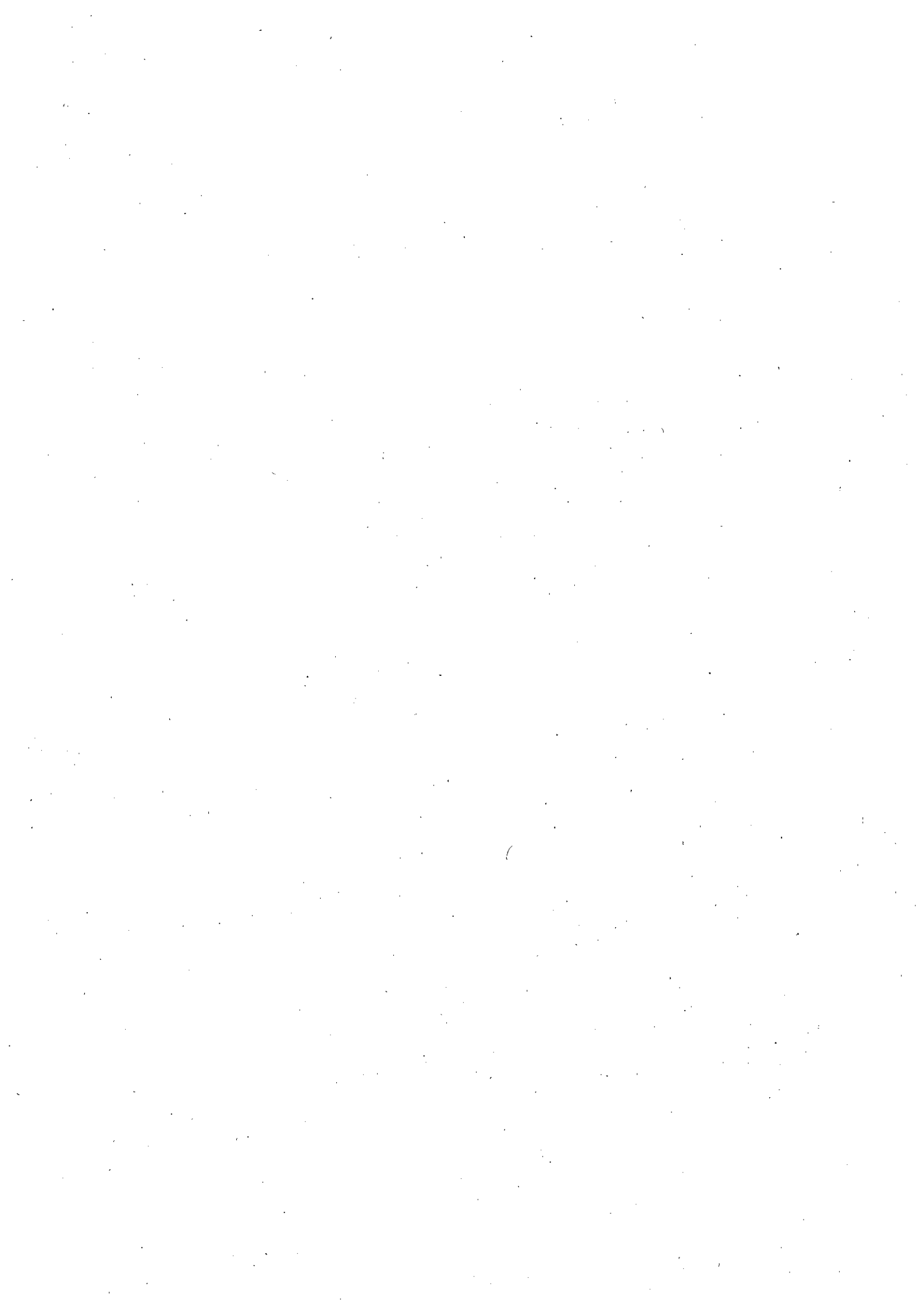


福島県公立大学法人の業務の実績
に関する評価結果報告

令和6年9月

福島県



目 次

I 公立大学法人福島県立医科大学の業務の実績に関する評価結果

1 令和5年度における業務の実績に関する評価結果

第1 「全体評価」	1
第2 「項目別評価」	3

2 第3期中期目標期間（平成30年度～令和5年度）における業務の実績に関する評価

第1 「全体評価」	11
第2 「項目別評価」	13
項目別評価 総括表	25

II 公立大学法人会津大学の業務の実績に関する評価結果

1 令和5年度における業務の実績に関する評価結果

第1 「全体評価」	41
第2 「項目別評価」	42

2 第3期中期目標期間（平成30年度～令和5年度）における業務の実績に関する評価

第1 「全体評価」	49
第2 「項目別評価」	50
項目別評価 総括表	59



公立大学法人会津大学の令和5年度業務の実績に関する評価結果（年度評価）

第1 「全体評価」

第3期中期目標期間の6年度目（最終年度）となる令和5年度の業務実績について、公立大学法人会津大学（以下「法人」という。）による自己評価は次のとおりである。

全項目（179項目）

「A：年度計画を上回って実施している」	54項目（30.2%）
「B：年度計画を予定どおりに実施している」	120項目（67.0%）
「C：年度計画を下回って実施している」	4項目（2.2%）
「D：年度計画を大幅に下回って実施している」	1項目（0.6%）

法人は、第3期中期目標の達成に向けて、教育、研究、国際化、地域貢献及び復興創生支援等に積極的に取り組み、成果を出している。特に、「東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故からの復興や地方創生に寄与するための取組」、「福島国際研究教育機構（以下「F-REI」という。）との連携を含む研究に係る取組」は高く評価できる。

1 会津大学

会津大学（以下「四大」という。）は、コンピュータ理工学の分野において国内外で活躍できる優秀な研究者及び技術者の育成はもとより、起業家精神を持つ人材の育成にも努めている。さらに、留学生の受入れや文部科学省スーパーグローバル大学創成支援事業等による国際化にも積極的に取り組んでいる。

また、福島ロボットテストフィールドを拠点に実施している浜通り地域におけるロボット産業への産学官連携、県立医科大学との連携による県民健康調査への協力、先端ICT技術に携わる人材育成事業、大学発ベンチャー企業の創出等、新たな産業の創出及び雇用の拡大のために積極的に取り組んでおり、本県の復興と地方創生に貢献していることについて高く評価できる。

さらに、F-REIと協力連携に関する基本合意書を締結するとともに、積極的な連携に取り組んでいる。

2 会津大学短期大学部

会津大学短期大学部（以下「短大」という。）では、産業、経営、デザイン、情報、環境、健康、栄養、食品、教育、保育、福祉等の専門分野の知識や技術を身に付け、地域貢献ができる職業人の育成に取り組んでいる。

また、優秀な学生の確保に向けた広報活動、産学官民との協働・連携、学生参画型実学・実践教育、派遣講座・公開講座、復興支援のための活動、学生へのきめ細やかな学修相談等に積極的に取り組んでおり、高く評価できる。

令和5年度の業務実績（項目別評価）は以下のとおりである。

	十分に実施	おおむね実施	下回って実施	大幅に下回る
教育研究等の質の向上	○			
教育	○			
研究	○			
国際化	○			
地域貢献・東日本大震災等の復興支援	○			
地域社会との連携・協力	○			
地域産業の振興	○			
復興支援	○			
管理運営の改善及び効率化		○		
業務運営の改善、効率化		○		
財務内容の改善		○		
自己点検・評価等		○		
その他業務運営		○		

第2 「項目別評価」

1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

【評価】「|」：年度計画を十分に実施できている」と認められる。

(1) 教育に関する目標を達成するための措置

【評価】「|」：年度計画を十分に実施できている」と認められる。

[令和5年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△]

(四大)

- ① ○ 優れた学生の確保に向け、試験会場を東京及び京都に設ける等に努めた結果、一般入試の志願倍率が4.5倍となり、目標の5.0倍をおおむね達成できた。
- ② ◎ 女子入学生増加に向けて、在学中の女子学生から協力を得ながら、女性を意識した広報活動に努めるとともに、女子学生向けの返還不要の奨励金を設ける等の取組の結果、入学者に対する女子学生の割合が15.1%となり、目標である12%を大幅に上回って達成した。
- ③ ○ 学部・修士一貫型プログラムの活用や教員による広報活動等の各種取組の結果、大学院博士前期課程の定員充足率は79.2%となり、目標である80%をおおむね達成した。
- ④ ○ 工学教育の質を保証するJABEE（一般社団法人日本技術者教育認定機構）から情報専門系学士課程CS（コンピュータ科学）分野の認定基準に適合しているとして、四大の「国際技術者育成プログラム」が認

定された。

- ⑤ ○ 学部3年次への進級要件の一つであるTOEIC®450点以上について、大学全体として英語力強化に取り組みむとともに、面談等の個別の対応を行った。
TOEIC®450点到達状況 1年生 71.6%(目標 60%)
2年生 91.9%(目標 100%)
- ⑥ ○ 成績不振の学生を出さないよう、早期把握・注意喚起に努め、担当職員による学生や保護者との面談を実施した。
- ⑦ ◎ 「ICTグローバルプログラム全英語コース(全授業を英語で履修)」の知名度が向上し、在籍人数が前年度比23%以上の増加となる131人(留学生63人、日本人学生58人、非正規学生10人)となり、目標である112人を達成した。
- ⑧ ○ 県内企業見学会や県内企業を始めたとした合同企業説明会を開催し、県内企業を周知した。
- ⑨ ○ 国際公募を通じ、優秀な女性教員2人を採用した結果、女性教員の割合が11.8%となり、目標である1.0%を達成した。

(短大)

- ① ◎ 優れた入学者の確保に向け、県内の高校訪問の増加に加え、県外の高校への訪問等を実施した結果、志願倍率が2.2倍となり、目標である2.0倍を達成した。
- ② ○ 学習成果を可視化するため、食物栄養学科ではカリキュラムツリー・マップ(教育目標と授業科目の関係や授業科目相互の関係を示す図表)を整備した。
- ③ ○ 資格取得に関連した演習科目を開講し、資格取得に努めた結果、取得希望者の取得率は下記の表のとおりとなり、目標をおおむね達成した。

産業情報 学科	二級建築士試験・木造建築士試験受験資格100% 色彩検定 2級100% 3級95% UC級100%
食物栄養 学科	栄養士免許100% フードスペシャリスト資格認定試験受験資格100% NR・サプリメントアドバイザー認定試験受験資格100%
幼児教 育・福祉 学科	幼稚園教諭二種免許100% 保育士資格100% 社会福祉士受験資格100%

- ④ ◎ 関連企業の情報提供等を通じ、免許資格関連職(栄養士、幼稚園教諭二種免許、保育士)への就職率は目標を達成した。
食物栄養学科 実績 100%(目標 100%)
幼児教育学科 実績 100%(目標 100%)
- ⑤ ◎ 教務厚生委員・ゼミ担当教員・学生相談員が、学生の相談に随時対応し、学生からの相談2,969件に対応した。
- ⑥ ○ 県内の求人情報を集約の上、学生に提供したり、学内で出張ハローワークを月2回の頻度で実施したりする等、学生の就職支援に積極的に取

り組んだ。

- ⑦ ○ 学生寮（一箕寮）の生活環境改善のため、入寮生の意見や現状を確認し、ガス給湯器の交換、浴室・脱衣所の清掃、オーブンレンジの購入等を行った。また、空き部屋を感染症対策の隔離部屋として活用する等、感染拡大防止に努めた。

(共通)

- ① ○ 合同企業説明会や企業見学会の実施、キャリア教育、進路希望の把握、就職支援員による学生との個別面談、就職支援ツールの試験的導入等、きめ細やかな支援に努めたことにより、高い就職率を維持した。
- | | | | |
|---------|----|-------|----------|
| 四大（大学院） | 実績 | 100% | （目標100%） |
| 四大（学部） | 実績 | 98.6% | （目標100%） |
| 短大 | 実績 | 99.2% | （目標100%） |
- ② ◎ 学生支援として、授業料等の減免を実施したほか、メンタルヘルス支援や会津大学学生生活支援寄附金を活用したプリペイドカードの配布等を行った。

(2) 研究に関する目標を達成するための措置

【評価】「Ⅰ：年度計画を十分に実施できている」と認められる。

【令和5年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△】

- ① ○ 四大では、新たに3か国・地域の大学（インドのインド工科大学カンプール校、コロンビアのイセシ大学、チュニジアのカルタゴ大学）と一般協定を結ぶとともに、京都工芸繊維大学等と共同研究を実施した。
- ② ◎ 四大では、国際的な研究発表等に努め、下記の実績を残した。また、知的財産の活用にも力を入れており、知的財産顧問を設置し、大学に帰属する知的財産の維持・管理を行った。
- | | | | |
|------------|----|--------|------------|
| 主要学術論文採択数 | 実績 | 363件 | （目標 300件） |
| 学術論文被引用件数 | 実績 | 7,455件 | （目標3,000件） |
| 科学研究費新規採択率 | 実績 | 25.6% | （目標 30%） |
| 特許出願件数 | 実績 | 15件 | （目標 12件） |
- ③ △ 短大では、地域実践研究等を通じて研究成果を地域社会へ還元したが、新型コロナウイルス感染症により研究活動が長期間制限されてきた影響もあり、学会発表件数がコロナ禍前より大幅に減少し、公表された研究活動数が60件となり、目標である100件を達成できなかった。
- ④ ◎ 産学官連携を積極的に推進し、外部資金獲得に努め、下記のとおり目標を大幅に上回った。
- | | | | |
|------------|----|-------|------------|
| 公募型研究費獲得件数 | 実績 | 167件 | （目標 120件） |
| 外部資金獲得額 | 実績 | 4.6億円 | （目標 2.5億円） |
- ⑤ ○ 皇族も御臨席した天文学に関する国際会議について、日本学術会議等と共同して、福島県郡山市での開催に尽力した。
- ⑥ ◎ F-REIと協力連携に関する基本合意書を締結するとともに、ロボット開発環境と人材育成に向けた受託研究事業を開始した。

(3) 国際化に関する目標を達成するための措置

【評価】「I」：年度計画を十分に実施できている」と認められる。

[令和5年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△]

- ① ○ 海外の大学等との交流協定について、米国、中国、インド、ヨーロッパ等の22の国・地域にある67校との協定を結んでおり、学生の海外研修、派遣等を実施した。交流協定に基づく具体的な取組として、共同研究の実施やデュアルディグリープログラム（会津大学と海外協定校の両方の修士課程で1年ずつ学び、修了時に2つの修士号を取得するプログラム）の推進、研究者及び学生の交流等を積極的に実施した。
- ② ○ 国際会議等に対する経費助成を3件実施した。
- ③ ◎ 196人の留学生を受入れ、外国人留学生の割合が14.3%となり、目標である10%を達成した。
- ④ ○ 日本学生支援機構や企業による経済支援活用等に努めたことで、日本人の留学・インターンシップ経験者が52名となり、目標の50人を達成した。
- ⑤ ◎ クラウドファンディングを活用し、留学生等が、浜通りにおける東日本大震災の復興活動を学ぶプログラムを実施した。

2 地域貢献・東日本大震災等の復興支援に関する目標を達成するためにとるべき措置

【評価】「I」：年度計画を十分に実施できている」と認められる。

(1) 地域社会等との連携・協力に関する目標を達成するための措置

【評価】「I」：年度計画を十分に実施できている」と認められる。

[令和5年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△]

- ① ◎ 教員派遣講座や学生企画を含む公開講座を下記のとおり実施し、法人が持つ知的資源を地域社会へ還元した。

	公開講座	教員派遣講座
四大	18件	34件
短大	6件	174件

- ② ○ 四大では、県内の中学校・高校に教員を派遣し、延べ46校に出前講義を実施する等、英語や理数系科目の学力向上等に努めた。そのうち、会津学鳳高校との高大連携事業においては、スポット講義を4回実施した。
- ③ △ 「パソコン甲子園2023」を開催し、全国から1,502人の高校生等が参加した。中高生向けのプログラミング講座等を実施し、参加者の掘り起こしと参加者のスキルアップを図ったが、目標である参加者2,000人は達成できなかった。
- ④ ○ 高校生向けの「コンピュータサイエンスサマーキャンプ会津大学

2023」の開催を支援し、定員40人に対して72人の応募があった。参加者のモチベーションも高く、ICTに興味のある高校生の掘り起こしに貢献した。

- ⑤ ◎ 四大では、県立医科大学との共同研究を2件、民間企業等との医療・保健分野における共同研究等を8件実施するとともに、メディカルクリエイションふくしまにおいて、インテリジェント浴槽システム開発の技術展示を行った。
- ⑥ ◎ アカデミア・コンソーシアムふくしま（福島県内の高等教育機関等の連合体）が実施する大学発イノベーション・ベンチャー創出事業に応募し、2件が採択され、課題解決に向けた研究に取り組んだ。
- ⑦ ◎ 四大では、「スマートシティ会津若松」の推進に関する基本協定に基づき、複数プロジェクト（12分野）に取り組んだ。また、郡山市・白河市・いわき市・福島県等との連携に取り組み、県内自治体のDX化を支援した。
- ⑧ ◎ 県内の高校（3校延べ147人が参加）において、eスポーツの基礎となるロボットシミュレーターやプログラミングの基礎を学べる講座を実施し、IT人材の育成に貢献した。
- ⑨ ◎ 短大では、学生参画型実学・実践教育を33件実施し、短大教員が有する知見と学生が持つアイデアを、企業等に対して提供した。
- ⑩ ◎ 短大では、地方自治体や企業等からの委託事業を積極的に受け入れ、地域との連携・協働事業を48件実施し、目標である20件を達成した。

(2) 地域産業の振興に関する目標を達成するための措置

【評価】「Ⅰ：年度計画を十分に実施できている」と認められる。

【令和5年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△】

- ① ◎ 四大では、ICT活用やデジタル社会の進展に寄与することを目的に、会津IT秋フォーラムを開催した（現地参加者延べ100人、累計視聴数5；200回）。
- ② ◎ 県内中小企業等のDX化を支援するため、学生が県内中小企業5社を訪問して課題等を調査・分析し、それぞれに適した課題解決の提案を行った。
- ③ ◎ 技術相談や意見交換を行う「会津オープンイノベーション会議（通称AOI会議）」を335回開催し、6件の事業化につなげる等、産業振興と地域課題解決に貢献した。

(3) 復興支援に関する目標を達成するための措置

【評価】「Ⅰ：年度計画を十分に実施できている」と認められる。

【令和5年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△】

- ① ◎ 四大では、「会津大学ロボットテストフィールド研究センター」（南相馬市における福島ロボットテストフィールド内）を中心に、浜通りの高校生等へロボット・ICT教育を実施し、延べ535人が参加した。
- ② ○ 地元企業等との共同研究や、南相馬ロボット産業協議会の特別会員に

加入するとともに、ロボット開発研究会に参加して助言を行う等、被災地域の産業振興を推進した。

- ③ ◎ 四大では、「女性のためのITキャリアアップ塾」を開催し、定員を超える110人に対してプログラミング等の学習機会を提供し、57人の就労に貢献した。
- ④ ○ 四大では、福島県警察本部のサイバー犯罪対策アドバイザーとしてサイバー犯罪防止に努めるとともに、民間企業と連携してサイバー攻撃対策演習講座を開催し、人材育成にも取り組んだ。
- ⑤ ○ 短大では、大熊町との連携協定に基づき、義務教育学校「学び舎ゆめの森」へ講師派遣を2件実施した。
- ⑥ ○ 短大では、被災市町村及び帰還住民を対象とした復興支援に関する地域連携活動を3件実施した。

3 管理運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

【評価】「Ⅱ：年度計画をおおむね実施できている」と認められる。

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置

【評価】「Ⅱ：年度計画をおおむね実施できている」と認められる。

【令和5年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△】

- ① ○ 法人職員を2人採用し、法人職員割合が47.1%となり目標の45%を達成した。また、国際公募等により7人（うち3人が外国人、2人が女性）の教員を採用した。
- ② ○ 総務及び経理関連の事務手続きの電子申請を開始し、事務処理の効率化を図った。

(2) 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

【評価】「Ⅱ：年度計画をおおむね実施できている」と認められる。

【令和5年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△】

- ① △ 産学イノベーションセンターの大規模改修工事に伴い、10月以降は貸出ししていない状況であったが、産学イノベーションセンター及び先端ICTラボの使用料収入は2,805万円となり、目標は達成できなかった。
- ② ○ 各種イベントに参加して技術展示・説明を行うとともに、技術移転機関（Technology Licensing Organization）との連携を継続し、知的財産の活用促進を図った。
- ③ ◎ 四大では、「会津大学生生活支援寄附金」を活用し、学食・売店で利用できるプリペイドカードを支給し、学生への経済的支援を実施した。また、過去6年間で最大となる奨学寄附金（20件、合計3,583万円）を受け入れ、学生支援及び教員の研究支援を実施した。
- ④ ○ 短大では、奨学金の活用方法を積極的に周知して広く寄附を募るとともに、12人の学生に奨学金を支給した。

(3) 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するための措置

【評価】「Ⅱ：年度計画をおおむね実施できている」と認められる。

[令和5年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△]

- ① ○ 「SLIMの月面着陸成功」等の優れた研究成果や、教員及び学生の表彰受賞、産学連携、公開講座等を大学ウェブサイトや各種媒体を通じて積極的に情報発信した。また、英語のページについても積極的に更新し、国内外へ広く情報を発信した。

(4) その他業務運営に関する目標を達成するための措置

【評価】「Ⅱ：年度計画をおおむね実施できている」と認められる。

[令和5年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△]

- ① ○ 人事評価を活用し定期的な面談（年5回）を実施したほか、職員面談を適時に行い、心身不調等の早期発見やその後のフォローに努めた。また、動画視聴形式によるメンタルヘルス研修を実施した。
- ② ◎ ネットワークシステムの更新を行い、通信レスポンスの改善を行った。また、教育・研究で利用しているネットワーク構成を見直し、ネットワーク利用の適正化等に取り組んだ。さらに、迷惑メール対策、セキュリティ対策を実施した。
- ③ △ 四大では、日数の拡大や看護師面談のオンライン化、事前予約システムの活用等による対策を講じたものの感染症の影響により、学生の健康診断受診率は82.4%となり、コロナ禍前の水準まで回復させることができなかった。なお、短大の学生健康診断受診率は100%となり、目標を達成した。

公立大学法人会津大学の第3期中期目標期間（平成30年度～令和5年度）に係る業務の実績に関する評価結果

第1 「全体評価」

公立大学法人会津大学（以下「法人」という。）における第3期中期目標期間の業務実績について、法人による自己評価は次のとおりである。

全項目（179項目）

- 「A：中期計画を上回って実施している」 58項目（32.4%）
- 「B：中期計画を予定どおりに実施している」 114項目（63.7%）
- 「C：中期計画を下回って実施している」 7項目（3.9%）
- 「D：中期計画を大幅に下回って実施している」 0項目（0%）

法人は、教育、研究、国際化、地域貢献及び復興創生支援等に積極的に取り組み、中期目標を上回る実績を上げることができた。

特に、東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故からの復興に寄与するため、コンピュータ理工学、産業情報学、食物栄養学、幼児教育学及び社会福祉学の専門性を生かした人材育成や共同研究、産業・文化の振興等に取り組んでいることは高く評価できる。

第3期中期目標期間の業務実績（項目別評価）は、以下のとおりである。

	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	見込 評価	実績 評価
教育研究等の質の向上	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ
教育	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ
研究	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ
国際化	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ
地域貢献・東日本大震災等の復興支援	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ
地域社会との連携・協力	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ
地域産業の振興	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ
復興支援	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ
管理運営の改善及び効率化	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ
業務運営の改善、効率化	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ
財務内容の改善	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ
自己点検・評価等	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ
その他業務運営	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ

1 会津大学

会津大学（以下「四大」という。）は、コンピュータ理工学の分野において国内外で活躍できる優秀な研究者及び技術者の育成に努めるとともに、起業家精神を持つ人材の育成にも力を注いでいる。さらに、留学生の受入れや文部科学省スーパーグローバル大学創成支援事業等による国際化にも積極的に取り組んでいる。

また、福島ロボットテストフィールドを拠点とした浜通り地域におけるロボット産業への産学官連携、県立医科大学との連携による県民健康調査への協力、先

端 ICT 技術に携わる人材育成事業、大学発ベンチャー企業の創出等、新たな産業の創出や雇用確保に積極的に取り組んでおり、本県の復興と地方創生に貢献していることについて高く評価できる。

さらに、福島国際研究教育機構と協力連携に関する基本合意書を締結するとともに、委託研究事業を開始する等、積極的な連携に取り組んでいる点は高く評価できる。

イギリスの教育専門誌 Times Higher Education による「THE 世界大学ランキング」にランクインし続けており、世界的にも評価を受けている。

パソコン甲子園、中高生向けのコンピュータサイエンスサマーキャンプ、公開講座、浜通り地域の高校生等向けのプログラミング演習、社会人向けのリカレント教育を実施し、ICT 人材育成の裾野を拡げる取組にも努めている。

なお、平成 29 年度に受審した公益財団法人大学基準協会の認証評価において指摘された「学部や大学院の課程ごとに入学受入方針（アドミッション・ポリシー）や、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）が区別されていないこと」、「博士後期課程においてリサーチワークとコースワークを適切に組み合わせていないこと」、「博士前期課程において研究指導計画の学生への明示が不十分であること」については、すでに対応している。

2 会津大学短期大学部

会津大学短期大学部（以下「短大」という。）では、産業、経営、デザイン、情報、環境、健康、栄養、食品、教育、保育、福祉等の専門分野の知識や技術を身に付け、地域貢献ができる職業人の育成に取り組み、高い就職率を維持している。

また、優秀な学生の確保に向けた新たな入試制度の導入や積極的な広報、産学官民との協働・連携、学生参画型実学・実践教育、派遣講座・公開講座、復興支援のための活動、学生へのきめ細やかな学修相談等に積極的に取り組んでおり、高く評価できる。

特に、「学生の県内就労」及び「地域との協働・連携」については、教職員一丸となって力を入れており、非常に高く評価できる。

なお、平成 29 年度に受審した公益財団法人大学基準協会の認証評価において指摘された「学位授与方針について学科ごとに策定されていない点及び課程修了にあたって修得することが求められる知識・能力等の学習成果を示していない点」、「学生寮（一箕寮）の老朽化による入居学生の居住環境の悪化」、「附属図書館の狭隘」の課題はすでに対応している。

第 2 「項目別評価」

- 1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置
【評価】「I：中期計画を十分に実施できている」と認められる。

- (1) 教育に関する目標を達成するための措置

【評価】「I：中期計画を十分に実施できている」と認められる。

【特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△】

(四大)

- ① ◎ 学内全体で英語教育の充実に取り組み、英語による学部授業科目割合を増加させ、目標の50%を達成したことは高く評価できる。また、学部3年次への進級要件の一つに、TOEIC®400点以上(2022年度入学生からは450点以上)を設定するとともに、英語要件により留年した学生がほぼいなかった点も高く評価できる。

	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
英語による学部 授業科目割合 (目標50%)	29.9%	72.2%	66.7%	61.8%	62.5%	66.7%
2年次終了時 TOEIC®達成割合 (目標100%)	81.9%	94.8%	87.7%	84.7%	90.8%	91.9%

- ② ○ 成績不振の学生を出さないよう、全学生に担当教員を配置する制度を設けるとともに、単位数不足者に注意喚起を行った。また、平成30年度入学生から留年制度を導入し、成績不振学生の早期把握に努め、成績不振学生には、本人及び保護者との面接を行う等、きめ細かい支援を実施した。また、専門知識を有する修学支援員の雇用や、遠隔授業等の新型コロナウイルス感染症対策等、修学支援の充実を図っている点は評価できる。

	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
留年新規判定人数	28人	26人	42人	24人	23人

- ③ ◎ 女子学生増加に向けて、学校推薦型選抜方法の見直し、女子学生向けの返還不要の奨励金の設置、在学中の女子学生からの協力も得た広報活動等に取り組んだ結果、入学者に対する女子学生の割合が15.1%となり、目標を上回って達成した。

	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
入学者に対する 女子学生の割合 (目標12%)	9.9%	9.5%	10.0%	10.2%	12.5%	15.1%

- ④ ○ 大学院進学率向上に向けた各種広報活動、オナーズプログラム(学部・修士一貫型)による5年間で修士号を取得できる制度運用等に取り組み、目標の大学院博士前期課程定員充足率80%をおおむね達成できた。

	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
大学院博士前期 課程定員充足率 (目標80%)	63.3%	67.5%	57.5%	65.8%	95.8%	79.2%

- ⑤ ◎ 工学教育の質を保証するJABEE(一般社団法人日本技術者教育認定機構)から情報専門系学士課程CS(コンピュータ科学)分野の認定基準に適合しているとして、四大の「国際技術者育成プログラム」が認

定された。

- ⑥ ○ 国際公募により教員を採用し、外国人等専任教員の割合が60.0%となり、目標の60.7%をおおむね達成した。また、女性教員採用に努め、女性教員割合が11.8%となり、目標の10%を達成した。

(短大)

- ① ○ 各学科において資格取得に向けた支援を行い、資格取得希望者の取得率について、目標の100%をおおむね達成した。

産業情報学科	二級建築士試験・木造建築士試験受験資格、色彩検定
食物栄養学科	栄養士免許、フードスペシャリスト資格認定試験受験資格、NR・サプリメントアドバイザー認定試験受験資格
幼児教育・福祉学科	幼稚園教諭二種免許、保育士資格、社会福祉士受験資格

- ② ◎ 免許資格関連職への就職を希望する学生の免許資格関連職への就職率について、目標の100%を達成することができた。
- ③ ○ 国の保育士養成課程の見直しに伴い、幼児教育・福祉学科の学科課程表や授業科目を見直し、県より指定保育士養成施設の変更承認を受けた。
- ④ ○ 教職員による学生相談、メンタルヘルス支援に努め、きめ細やかな学生支援を行っている。
- ⑤ ○ 学生寮（一箕寮）の生活環境改善に努め、厨房・食堂の改修工事、電気容量アップ工事、各室のLED照明更新等を実施した。また、ブロック塀からフェンスへの更新工事を実施した。

(共通)

- ① ○ オンラインでの広報活動等を通じて、コロナ禍においても大学が求める入学者の確保に努め、一般入試の志願倍率の目標をおおむね達成できた。特に、入試方法の変更や受験者へのアンケートを踏まえた広報活動の見直し等、優秀な学生確保に向けて積極的に取り組んだ。

	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
四大(目標5.0倍)	5.8倍	6.3倍	5.6倍	5.2倍	3.8倍	4.5倍
短大(目標2.0倍)	3.1倍	3.1倍	2.4倍	2.7倍	2.5倍	2.2倍

- ② ○ キャリア教育、学生との個別面談、就職支援員による就職活動支援等、きめ細やかな支援に努めたことにより、就職希望者の就職率について目標の100%をおおむね達成できた。

	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
四大(院)	100%	98.1%	97.4%	100%	100%	100%
四大(学部)	98.6%	98.1%	97.4%	99.2%	97.9%	98.6%
短大	97.8%	97.7%	98.5%	98.3%	98.3%	99.2%

- ③ ◎ 学生支援として、授業料減免制度の継続実施のほか、会津大学学生生活支援基金の活用による給付金支給に加え、学内で使用できるプリペイドカードの支給や、メンタルヘルス支援、コロナ禍における食料支援等

を行った。特に、令和元年4月から「会津大学学生生活支援基金」を設置し、寄附金の募集を開始した。これにより、修学が困難な学生に対する経済的支援を大学が積極的に行えるようにしたことは高く評価できる。

- ④ ○ ファカルティ・ディベロップメント（授業内容等を改善し向上させるための組織的取組）として、学生による評価アンケート、教員表彰（学生が選ぶベスト授業賞）、外部講師による講演会開催等を実施した。

(2) 研究に関する目標を達成するための措置

【評価】「I：中期計画を十分に実施できている」と認められる。

[特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△]

(四大)

- ① ◎ 四大では、研究力強化を図るため、講座制を廃止し、研究クラスター（研究テーマに応じて組織横断的なチームで研究を行う取組）による研究を推進した。
- ② ○ 6年間で、新たに12か国・地域の28の大学や研究機関と協定を締結し、共同研究等につながる取組を進めている。
- ③ ◎ 科学研究費の新規採択率について目標の30%を達成していない年度もあるが、主要学術論文採択数、学術論文被引用件数、特許出願件数は、目標を大きく上回る実績となった。特に、学術論文被引用件数は、6年間で80%以上増加した。

	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
主要学術論文採択数 (目標 300 件)	282 件	313 件	295 件	303 件	354 件	363 件
学術論文被引用件数 (目標 3,000 件)	4,046 件	4,743 件	4,881 件	5,872 件	7,070 件	7,455 件
科学研究費の新規採 択率 (目標 30%)	20.0%	26.7%	35.7%	20.0%	24.2%	25.6%
外部資金獲得件数 (目標 120 件)	116 件	135 件	157 件	141 件	172 件	167 件
特許出願件数 (目標 12 件)	8 件	15 件	16 件	10 件	12 件	15 件

- ④ ○ 平成31年に宇宙情報科学研究センターが文部科学省の「共同利用・共同研究拠点（月惑星探査アーカイブサイエンス拠点）」の認定を受け、全国の研究者と共同研究を実施している。
- ⑤ ◎ 福島国際研究教育機構と協力連携に関する基本合意書を締結するとともに、ロボット開発環境と人材育成に向けた受託研究事業を開始した。

(短大)

- ① ○ 産官民との連携、学生参画型実学・実践教育を通じた地域課題解決等により、研究成果を地域社会へ還元した。

- ② △ 公表された研究活動数は、新型コロナウイルス感染症による人的交流が制限された影響を除けば、目標の100件を達成している。

	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
公表された研究活動数(目標100件)	125件	107件	89件	73件	65件	60件

(共通)

- ① ◎ 外部資金獲得のため学内連携に努め、外部資金獲得件数及び外部資金獲得額について、目標を大きく上回って達成した。

	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
外部資金獲得件数(目標120件)	116件	135件	157件	141件	172件	167件
外部資金獲得額(目標2.5億円)	1億6664万円	3億6856万円	3億9602万円	3億4350万円	4億3863万円	4億6074万円

- (3) 国際化に関する目標を達成するための措置

【評価】「I：中期計画を十分に実施できている」と認められる。

[特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△]

(四大)

- ① ◎ 新型コロナウイルス感染症の影響もある中で、「デュアルディグリープログラム(会津大学と海外協定校の両方の修士課程で1年ずつ学び、修了時に2つの修士号を取得するプログラム)」、「グローバル3+2プログラム(海外の協定大学の学部を3年で履修したのち、会津大学の修士課程に進学し、2年間で修士号を取得するプログラム)」、「ICTグローバルプログラム全英語コース(全授業を英語で履修。以下「ICTGコース」という。)」等を通して、会津大学の認知度の向上及び優秀な外国人留学生の獲得に努めたことにより、外国人留学生の割合が14.3%となり、目標の10%を上回る実績となった。

	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
外国人留学生の割合(目標10%)	6.1%	7.9%	9.5%	12.4%	12.5%	14.3%
ICTGコース在籍人数	32人	41人	69人	76人	106人	131人

- ② ○ 新型コロナウイルス感染症の影響や円安・物価高騰の経済的影響もある中で、日本人学生の留学・インターンシップの拡充、留学生派遣支援体制の充実、外部資金を活用した経済的支援等に努め、日本人学生の留学経験者数について目標の50人を達成できた。

	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
日本人学生の留学経験者数(目標50人)	43人	22人	55人	61人	44人	52人

- ③ ◎ 文部科学省のスーパーグローバル大学創成支援事業の認定を受け、大

学院を含めたグローバル創業教育を確立した。また、継続的な事業とするため、外部資金確保等の自走化にも取り組んだ。

- ④ ○ 新型コロナウイルス感染症による影響を受けつつも、地域自治体や会津大学外国人留学生後援会等と連携した交流イベントの開催、クラウドファンディング制度を導入した資金調達手段の確保、教員主催の国際会議等への経費助成等を通じ、学内及び地域の国際化に貢献した。

2 地域貢献・東日本大震災等の復興支援に関する目標を達成するためにとるべき措置

【評価】「I：中期計画を十分に実施できている」と認められる。

(1) 地域社会等との連携・協力に関する目標を達成するための措置

【評価】「I：中期計画を十分に実施できている」と認められる。

[特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△]

(四大)

- ① ◎ 市町村や企業等との連携協定を新たに12件締結し、助言活動や人材育成、地域課題解決等を通じてDX化や地域活性化に寄与した。
- ② ◎ 県立医科大学や民間企業等との共同研究等に積極的に取り組んだ。
- ③ ○ 中高生向けの「コンピュータサイエンスサマーキャンプ会津大学」の開催を支援し、会津の魅力発信やICT人材育成に努めた。
- ④ △ 全国高等学校パソコンコンクール（パソコン甲子園）では、人材育成の長年の功績が評価され、日本工学教育協会の第23回工学教育賞における文部科学大臣賞を受賞した。コロナ禍において、オンラインで実施することにより、大会を継続開催したことは評価できるが、目標の参加者2,000人は達成できなかった。

	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
パソコン甲子園参加人数(目標2,000人)	1,906人	1,850人	1,555人	1,716人	1,505人	1,502人

(短大)

- ① ◎ 地域との連携・協働事業について、地方自治体等からの委託事業を積極的に受け入れ、目標の20件を達成した。特に、令和5年度は、目標に対して140%の増の48件となった。

	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
地域との連携・協働事業数(目標20件)	16件	21件	27件	27件	29件	48件

(共通)

- ① ◎ コロナ禍においてはオンライン開催に切り替える等により、公開講座及び教員派遣講座を継続的に開催し、法人が持つ知的資源を地域社会へ還元した。

	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
公開講座	16件	20件	14件	20件	19件	24件
教員派遣講座	219件	253件	165件	194件	215件	208件

(2) 地域産業の振興に関する目標を達成するための措置

【評価】「I：中期計画を十分に実施できている」と認められる。

【特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△】

- ① ◎ 県内外の企業等からの技術相談等を受ける「会津オープンイノベーション会議(AOI会議)」を実施し、共同研究や事業化等に発展させることで、産業振興に貢献した。また、会津若松市のスーパーシティ構想への支援を始め、市町村や民間企業等との連携が評価され、経済産業省の「地域オープンイノベーション拠点(地域貢献型)」に選ばれた。

	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
AOI会議開催件数(目標300回)	373回	340回	316回	311回	315回	335回

- ② ○ 大学発ベンチャー企業として12社を新たに認定し、総数31社となり、目標の総数30社を達成した。また、大学発ベンチャー企業への支援及び連携した研究活動も実施した。

	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
大学発ベンチャー認定企業数	3社	2社	2社	3社	2社	0社

(3) 復興支援に関する目標を達成するための措置

【評価】「I：中期計画を十分に実施できている」と認められる。

【特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△】

(四大)

- ① ◎ 「会津大学ロボットテストフィールド研究センター」(南相馬市の福島ロボットテストフィールド内)を中心として、ロボットや先端ICT技術の実証・開発、地元製造業との連携、浜通り地域の高校生等を対象としたロボット関連技術講習会を開催する等、産学官連携や人材育成を通じて、福島イノベーション・コースト構想の実現に向けて貢献した。
- ② ◎ 「女性のためのITキャリアアップ塾」を実施し、県内就職を希望する女性に対してプログラミング等を学習する機会を提供するとともに就労支援を行い、第3期中期目標期間中に累計400人以上の就労に貢献した。この取組は、日本工学教育協会の第25回工学教育賞を受賞した。

	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
就労者数	56人	108人	56人	68人	62人	57人

- ③ ◎ ロボット技術に係る研究成果や技術を県内企業に還元し、地域のイノベーションに貢献した。また、ロボットに関する各種取組は、大学間連携功労者表彰の受賞や World Robot Summit での入賞等、学外からも高い評価を受けている。
- ④ ◎ 福島県警察本部のサイバー犯罪対策アドバイザーとして助言を行う等、サイバー犯罪防止に協力した。また、コロナ禍において、県内中小企業支援のためにサイバーセキュリティ研修を実施したことは評価できる。

(短大)

- ① ○ 大熊町立学び舎ゆめの森（大熊町立小・中学校）からの要望に応じて講師派遣や施設の開放等、大熊町の将来を担う人材の育成を支援した。
- ② ○ 被災市町村及び帰還住民を対象とした復興支援に関する協働・連携事業を実施した。

	H30 年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度
復興支援に関する協働・連携事業	5 件	12 件	5 件	7 件	3 件	3 件

3 管理運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置
【評価】「Ⅱ：中期計画をおおむね実施できている」と認められる。

- (1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置
【評価】「Ⅱ：中期計画をおおむね実施できている」と認められる。
【特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△】

(共通)

- ① ○ タブレット端末を利用したペーパーレス会議、電子申請システムの導入等、事務の効率化に努めた。また、コピー用紙購入量は平均 5.8% 減となり、目標の平均 5% 減を達成できた。

	H30 年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度
コピー用紙購入量(目標平均 300 万枚)	317 万枚	336 万枚	272 万枚	254 万枚	307 万枚	301 万枚

- ② ○ 公募により職員を採用した結果、法人職員割合は 47.1% となり、目標の 45% を上回って達成した。

- (2) 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置
【評価】「Ⅱ：中期計画をおおむね実施できている」と認められる。
【特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△】

- ① ○ シーズ集を発行するとともに、各種技術展示会への参加等により、知的財産の情報発信に努めた。また、技術移転機関（TLO）との連携により、令和 2 年度には実施許諾契約を 1 件締結した。
- ② ○ 特許庁から人材を雇用するとともに、知的財産顧問（弁理士委嘱）を

設置し、専門的助言を受けながら知的財産の獲得・活用に取り組んだ。

- ③ ○ 会津大学学生生活支援寄附金を活用し、学生への経済的支援を実施した。また、会津若松市や民間企業等から奨学寄附金を受け入れ、学生支援及び教員による研究を支援した。
- ④ △ 新型コロナウイルス感染症による外部貸出しを原則禁止していた影響や、産学イノベーションセンターの大規模改修工事に伴う影響により、目標を達成できなかった時期があった。

	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
LICTiA・UBIC 使用料(目標 3,200万円)	2,523万 円	2,787万 円	3,122万 円	2,995万 円	2,931万 円	2,806万 円
施設使用料(目 標300万円)	374万円	304万円	65万円	74万円	141万円	202万円

(3) 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するための措置

【評価】「Ⅱ：中期計画をおおむね実施できている」と認められる。

[特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△]

(共通)

- ① ○ 法人の認知度向上のため、はやぶさ2プロジェクトへの参加、野生動物検出システム等の研究成果、学生・教職員の表彰実績、産学連携、地域貢献等について積極的に情報発信した。

(4) その他業務運営に関する目標を達成するための措置

【評価】「Ⅱ：中期計画をおおむね実施できている」と認められる。

[特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△]

- ① ◎ 新型コロナウイルス感染症対策として、遠隔授業の実施、電子ブックの整備、パーテーションの設置、短大トイレ改修工事等を実施した。
- ② ○ コンプライアンスの徹底を図るため、研究論文剽窃チェックツールの導入や各種研修を開催した。特に、コンプライアンス研修については、対象者を研究者だけでなく修士課程の学生にまで拡大して実施した。
- ③ △ 四大では、学生・教職員の健康診断受診率向上のため、実施日の追加、健康調査のオンライン化、メールによる実施日時等の周知等、受診しやすい環境整備に努めた。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、四大学生の健康診断受診率は低下した。

受診率		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
学生	四大	88.3%	90.7%	77.2%	83.3%	80.8%	82.4%
	短大	97.8%	98.4%	98.0%	97.3%	95.9%	100%
教職 員	四大	94.0%	92.5%	94.9%	94.2%	95.9%	95.5%
	短大	100%	100%	100%	100%	100%	100%

2 項目別評価 総括表

評価項目	公立大学法人自己評価										評価委員会評価		
	計画達成の状況										項目別評価	評価における特記事項	
第1 大学の教 育研究等 の質の向 上に関する 目標を達 成するため にとるべき 措置	中期	A	35	B	66	C	3	D	0		I		
	年度	A	31	B	71	C	2	D	0				
		A	22	B	46	C	2	D	0				
		(四大) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。											
	中期	A	11	B	15	C	1	D	0				
		(短大) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。											
		A	2	B	5	C	0	D	0				
		(四大・短大共通) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。											
	年度	A	23	B	46	C	1	D	0				
		(四大) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。											
	A	7	B	19	C	1	D	0					
	(短大) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。												
	A	1	B	6	C	0	D	0					
	(四大・短大共通) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。												

1	教育に関する目標を達成するための措置	中期	A	23	B	56	C	1	D	0	I		
			年度	A	19	B	61	C	0	D		0	
			A	12	B	39	C	1	D	0			
			(四大)	予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。									
			A	11	B	14	C	0	D	0			
			(短大)	予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。									
			A	0	B	3	C	0	D	0			
			(四大・短大共通)	予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。									
			A	12	B	40	C	0	D	0			
			(四大)	予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。									
年度	A	7	B	18	C	0	D	0	I				
	(短大)	予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。											
	A	0	B	3	C	0	D	0					
	(四大・短大共通)	予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。											

			<p style="text-align: center;">(1) 入学者受 入方針及 び入試制 度に関する 目標を達 成するため の措置</p>									
			<p>中期 年度</p>	<p>A</p>	<p>7</p>	<p>B</p>	<p>13</p>	<p>C</p>	<p>0</p>	<p>D</p>	<p>0</p>	<p>0</p>
			<p>A</p>	<p>5</p>	<p>B</p>	<p>15</p>	<p>C</p>	<p>0</p>	<p>D</p>	<p>0</p>		
			<p>A</p>	<p>3</p>	<p>B</p>	<p>11</p>	<p>C</p>	<p>0</p>	<p>D</p>	<p>0</p>		
			<p>(四大) 学士課程における入学者選抜方法の改善、志願者確保のための広報活動、大学院課程における留学生や進学者の確保などについて、計画どおり実施した。</p>									
			<p>A</p>	<p>4</p>	<p>B</p>	<p>2</p>	<p>C</p>	<p>0</p>	<p>D</p>	<p>0</p>		
			<p>(短大) 入学者確保のため、高校訪問、進学説明会、メディアを用いた広報活動を継続し、志願倍率2.0倍以上を維持するなど、計画どおり実施した。</p>									
			<p>A</p>	<p>3</p>	<p>B</p>	<p>11</p>	<p>C</p>	<p>0</p>	<p>D</p>	<p>0</p>		
			<p>(四大) 大学が求める入学者確保のため、積極的な高校訪問などの取組を計画どおり実施した。一般入試の志願倍率、入学者に対する女子学生の割合とともに、目標を達成することができた。</p>									
			<p>A</p>	<p>2</p>	<p>B</p>	<p>4</p>	<p>C</p>	<p>0</p>	<p>D</p>	<p>0</p>		
			<p>(短大) 大学が求める入学者確保のため、入学者受入方針の周知、積極的な高校訪問、受験者アンケートを踏まえた広報改善などの取組を計画どおり実施した。</p>									
			<p style="text-align: center;">II</p>									
			<p>【会津大学】 一般選抜の志願倍率は、目標の5.0倍をおおむね達成しているが、少子化等の影響もあるため継続努力が必要。 【会津大学短期大学部】 一般選抜の志願倍率は、目標の2.0倍を達成した。</p>									
			<p style="text-align: center;">I</p>									
			<p>【会津大学】 入学者に対する女子学生の割合が15%となり、目標を十分に達成した。 【会津大学短期大学部】 志願倍率が2.2倍となり、目標の2.0倍を達成した。</p>									

	(2)	教育内容及び教育等の成果等に関する目標を達成するための措置	中期	A	11	B	21	C	1	D	0
			年度	A	10	B	23	C	0	D	0
			中期	A	7	B	16	C	1	D	0
				(四大)	大学が育成を目指す人物像を理解してもらったため、学位授与方針、教育課程・実施方針の周知・検証や、シラバスの英語化などに取り組むことで、概ね計画どおり達成できた。						
			中期	A	4	B	5	C	0	D	0
				(短大)	大学が育成を目指す人物像を理解してもらったため、学位授与方針、教育課程・実施方針の周知・検証などに取り組むことで、概ね計画どおり達成できた。						
			年度	A	7	B	17	C	0	D	0
				(四大)	大学が育成を目指す人物像を理解してもらったため、学位授与方針、教育課程・実施方針の周知・検証や、4学期制の継続、シラバスの英語化などの取組を計画どおり実施した。ICTグローバルプログラム全英語コースの在籍数、英語による授業科目数などは目標値を上回る実績となった。						
			年度	A	3	B	6	C	0	D	0
				(短大)	大学が育成を目指す人物像を理解してもらったため、学位授与方針、教育課程・実施方針の周知・検証などの取組を計画どおり実施した。免許・資格取得希望者の取得率及び資格等取得者の資格関連職への就職率はほぼ計画どおりの実績となった。						
				I	【会津大学】 留年制度を導入し、教員と修学支援室が連携して学生への早期支援を行っている。						
				I	【会津大学短期大学部】 免許・資格取得率向上のため、外部講師の招聘等に取り組んでいる。						
				I	【会津大学】 JABEE(第三者機関による教育プログラム認証)から国際技術者育成プログラムの認証を取得した。						
				I	【会津大学短期大学部】 食物栄養学科ではカリキュラムツリー・マップを整備した。						

	(3)	教育の実施に関する目標を達成するための措置	中期	A	2	B	9	C	0	D	0								
			年度	A	2	B	9	C	0	D	0								
			中期	<p>(四大)</p> <p>施設や機器の整備、教員研修の実施、教員の国際公募による採用に取り組むことで、概ね計画どおり達成できた。</p> <p>(短大)</p> <p>ネットワークシステムや実習機器の更新整備に取り組むことで、概ね計画どおり達成できた。</p> <p>A</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>0</td> <td>B</td> <td>3</td> <td>C</td> <td>0</td> <td>D</td> <td>0</td> </tr> </table> <p>(四大・短大共通)</p> <p>施設・設備の計画的な修繕や維持管理、教員の募集・採用に取り組むことで、概ね計画どおり達成できた。</p>								A	0	B	3	C	0	D	0
			A	0	B	3	C	0	D	0									
年度	<p>(四大)</p> <p>施設や機器の環境整備、教員研修、教員の国際公募による採用などの取組を計画どおり実施した。外国人及び外国の大学で学位を取得した専任教員等の割合及び女性教員数はほぼ計画どおりの実績となった。</p> <p>(短大)</p> <p>A</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>1</td> <td>B</td> <td>2</td> <td>C</td> <td>0</td> <td>D</td> <td>0</td> </tr> </table> <p>今年度更新したネットワークシステム及び導入を一年延期していた学務システムについて、安定的に運用することができた。また、実習機器の更新整備などの取組を計画どおり実施した。</p> <p>(四大・短大共通)</p> <p>施設・設備の計画的な修繕や維持管理、教員の募集・採用などの取組を年度計画どおり実施した。</p>								A	1	B	2	C	0	D	0			
A	1	B	2	C	0	D	0												
			I	<p>【四大・短大共通】</p> <p>ネットワークシステム等の更新・改善を計画的に実施した。</p>															
			I	<p>【会津大学】</p> <p>国際公募により女性教員2名を採用し、女性教員の割合が11.8%となった。</p> <p>【会津大学短期大学部】</p> <p>外部講師を招き、「教育の質保証」をテーマに教員研修会を開催した。</p>															

	(4) 学生への支援に関する目標を達成するための措置	中期	A	3	B	13	C	0	D	0
		年度	A	2	B	14	C	0	D	0
			A	1	B	8	C	0	D	0
		(四大) 学生支援に関する方針の検討、全学生への担当教員の配置、就職支援等に取り組むことにより、概ね計画どおり達成できた。								
		中期	A	2	B	5	C	0	D	0
			(短大) 学生支援に関する方針の検討、就職支援、寮の運営改善等に取り組むことにより、概ね計画どおり達成できた。							
		年度	A	1	B	8	C	0	D	0
			(四大) 学生支援に関する方針の検討、全学生への担当教員の配置、就職支援などの取組を計画どおり実施した。創明寮においては、新型コロナウイルス感染症が5類になったことを受け、留学生と日本人学生の相互交流の場を提供することができた。							
			A	1	B	6	C	0	D	0
			(短大) 学生支援に関する方針の検討、就職支援、寮の運営改善などの取組を計画どおり実施した。学生相談室を新設し、学生の相談に適切に対応できる環境を整えた。							
		I	【四大・短大共通】 新型コロナウイルス感染症拡大を受け、給付金支給や外部からの寄附食料の速やかな配布、オンラインへの対応等に努めた。							
		I	【会津大学】 県内企業見学会や県内企業を含めた合同企業説明会を開催し、県内企業を周知した。 【会津大学短期大学部】 学生相談を2,969件実施した。							

2	研究に関する目標を達成するための措置	中期	年度	A	8	B	9	C	2	D	0	
				A	7	B	10	C	2	D	0	
				A	6	B	6	C	1	D	0	
				(四大) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。								
				A	0	B	1	C	1	D	0	
				(短大) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。								
				A	2	B	2	C	0	D	0	
				(四大・短大共通) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。								
				A	6	B	6	C	1	D	0	
				(四大) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。								
年度	年度	A	0	B	1	C	1	D	0			
		(短大) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。										
		A	1	B	3	C	0	D	0			
		(四大・短大共通) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。										
		I										
		I										

		研究水準及び研究成果等の目標に関する目標を達成するための措置	(1)	中期	A	7	B	7	C	2	D	0	【会津大学】 研究力強化のため、講座制を廃止し、クラスターモデルを導入した。また、学術論文被引用件数、外部資金獲得額、特許出願件数は目標を大きく上回っている。
				年度	A	7	B	7	C	2	D	0	
				中期	<p>(四大)</p> <p>研究科、学部各部門、各センターや学内横断的な研究に取り組むことで、計画どおり達成できた。</p> <p>A 0 B 1 C 1 D 0</p> <p>(短大)</p> <p>基礎的研究、応用的研究、地域実践研究を行い、その成果の公表に取り組むことで、計画どおり達成できた。</p> <p>A 1 B 0 C 0 D 0</p> <p>(四大・短大共通)</p> <p>外部資金獲得に取り組むことで、計画どおり達成できた。</p> <p>A 6 B 6 C 1 D 0</p> <p>(四大)</p> <p>研究科、学部各部門、各センターにおいて年度計画どおり研究に取り組み、主要学術論文採択数、学術論文引用件数等で目標を上回った。</p> <p>A 0 B 1 C 1 D 0</p> <p>(短大)</p> <p>基礎的研究、応用的研究、地域実践研究を行い、その成果を公表する取組などを年度計画どおり実施したが、研究活動数は目標値には達しなかった。</p> <p>A 1 B 0 C 0 D 0</p> <p>(四大・短大共通)</p> <p>外部資金獲得の取組を年度計画どおり実施し、外部資金の獲得件数及び獲得額は目標を大きく上回った。</p>								【会津大学短期大学部】 コロナ禍以前は、公表された研究活動数が目標の100件を達成していたが、人的交流の制限の影響を受け、低迷している。
				年度	<p>(四大)</p> <p>研究科、学部各部門、各センターや学内横断的な研究に取り組むことで、計画どおり達成できた。</p> <p>A 0 B 1 C 1 D 0</p> <p>(短大)</p> <p>基礎的研究、応用的研究、地域実践研究を行い、その成果を公表する取組などを年度計画どおり実施したが、研究活動数は目標値には達しなかった。</p> <p>A 1 B 0 C 0 D 0</p> <p>(四大・短大共通)</p> <p>外部資金獲得の取組を年度計画どおり実施し、外部資金の獲得件数及び獲得額は目標を大きく上回った。</p>								
					<p>(四大)</p> <p>研究科、学部各部門、各センターや学内横断的な研究に取り組むことで、計画どおり達成できた。</p> <p>A 0 B 1 C 1 D 0</p> <p>(短大)</p> <p>基礎的研究、応用的研究、地域実践研究を行い、その成果を公表する取組などを年度計画どおり実施したが、研究活動数は目標値には達しなかった。</p> <p>A 1 B 0 C 0 D 0</p> <p>(四大・短大共通)</p> <p>外部資金獲得の取組を年度計画どおり実施し、外部資金の獲得件数及び獲得額は目標を大きく上回った。</p>								【会津大学短期大学部】 公表された研究活動数が60件となり、目標の100件を達成できなかった。

(2)	研究の実施体制等に関する目標を達成するための措置	中期	A	1	B	2	C	0	D	0		
		年度	A	0	B	3	C	0	D	0		
		中期	A	1	B	2	C	0	D	0		
			(四大・短大共通) 研究に必要な施設・設備の適切な維持管理、学内研究費の効果的な見直し、研究費適正執行等に取り組むことで、概ね計画どおり達成できた。									
3	国際化に関する目標を達成するための措置	年度	A	0	B	3	C	0	D	0		
		中期	(四大・短大共通) 研究に必要な施設・設備の適切な維持管理、学内研究費の効果的な見直し、研究費適正執行に関する取組を年度計画どおり実施した。									
			年度	A	4	B	1	C	0	D	0	
		中期	A	5	B	0	C	0	D	0		
A	4		B	1	C	0	D	0				
3	国際化に関する目標を達成するための措置	中期	(四大) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。									
		年度	A	5	B	0	C	0	D	0		
3	国際化に関する目標を達成するための措置	年度	(四大) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。全学生数に対する外国人留学生数の割合は目標値を大きく上回る実績となった。									
		年度	A	5	B	0	C	0	D	0		

中期 年度	A	19	B	9	C	1	D	0	
	A	19	B	8	C	1	D	1	
中期	A	16	B	6	C	1	D	0	
	(四大) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。								
	A	3	B	2	C	0	D	0	
	(短大) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。								
年度	A	0	B	1	C	0	D	0	
	(四大・短大共通) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。								
	A	16	B	5	C	1	D	1	
	(四大) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。								
年度	A	3	B	2	C	0	D	0	
	(短大) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。								
	A	0	B	1	C	0	D	0	
	(四大・短大共通) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。								

地域貢献・
東日本大
震災等の
復興支援
に関する目
標を達成
するために
とるべき措
置

第2

1	地域社会等との連携・協力に関する目標を達成するための措置	中期	A	9	B	6	C	1	D	0			
			年度	A	10	B	5	C	1	D	0		
			A	6	B	5	C	1	D	0			
			(四大)	公開講座、先端ICT人材育成、協定締結自治体や県立医科大学との連携した取組、ロボット事業等を継続することで、計画どおり達成できた。									
			A	3	B	0	C	0	D	0			
			(短大)	一般市民向けの公開講座、地域活性化センターを中心とした地域との協働・連携などの取組等を継続することで、計画どおり達成できた。									
			A	0	B	1	C	0	D	0			
			(四大・短大共通)	新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、施設等の外部貸出に取り組み、計画どおり達成できた。									
			A	7	B	4	C	1	D	0			
			(四大)	一般市民向けの公開講座、先端ICT人材育成、協定締結自治体や県立医科大学との連携した取組などを年度計画どおり実施した。ロボット事業における浜通りの高校生への人材育成やAOI会議の県内への展開は計画を上回って実施できた。									
中期	年度	A	3	B	0	C	0	D	0				
		(短大)	一般市民向けの公開講座、地域活性化センターを中心とした地域との協働・連携などの取組を年度計画どおり実施し、派遣講座数は目標値を上回った。										
		A	0	B	1	C	0	D	0				
		(四大・短大共通)	新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、2023年5月以降は貸出を再開することで、利用件数・使用料収入とも前年度を上回ったが、感染症拡大前の水準までは回復していない。										

2	地域産業の振興に関する目標を達成するための措置	中期	A	5	B	0	C	0	D	0	I
		年度	A	4	B	0	C	0	D	1	
		中期	A	5	B	0	C	0	D	0	
		(四大) 「女性のためのITキャリアアップ塾」を通じた県内就労支援、地域企業との積極的連携、A01会議の全県的展開などに取り組むことで、計画どおり達成できた。									
3	復興支援に関する目標を達成するための措置	年度	A	4	B	0	C	0	D	1	I
		中期	A	5	B	3	C	0	D	0	
		年度	A	5	B	3	C	0	D	0	
		中期	A	5	B	1	C	0	D	0	
		中期	A	0	B	2	C	0	D	0	I
		年度	A	5	B	1	C	0	D	0	
		中期	A	5	B	1	C	0	D	0	
		(四大) A01会議の積極的な開催、県立医大や県警本部と連携した取組、ロボット人材育成などの取組等を継続することで、計画どおり達成できた。									
		年度	A	0	B	2	C	0	D	0	I
		中期	A	5	B	1	C	0	D	0	
		年度	A	0	B	2	C	0	D	0	
		(短大) 「学び舎ゆめの森(旧 大熊町立小・中学校)」への支援、地域との協働連携の取組等を継続することで、計画どおり達成できた。									
		年度	A	5	B	1	C	0	D	0	I
		中期	A	5	B	1	C	0	D	0	
		年度	A	0	B	2	C	0	D	0	
		(短大) 「学び舎ゆめの森(旧 大熊町立小・中学校)」への支援、地域との協働連携の取組等を、計画どおり実施した。									

中期 年度	A	4	B	39	C	3	D	0	
	A	4	B	41	C	1	D	0	
中期	A	2	B	3	C	2	D	0	
	(四大) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。								
	A	0	B	4	C	0	D	0	
	(短大) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。								
年度	A	2	B	32	C	1	D	0	
	(四大・短大共通) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。								
	A	1	B	5	C	1	D	0	
	(四大) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。								
年度	A	1	B	3	C	0	D	0	
	(短大) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。								
	A	2	B	33	C	0	D	0	
	(四大・短大共通) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。								

第3
管理運営
の改善及
び効率化
に関する目
標を達成
するために
とるべき措
置

1	業務運営及び効率化に関する目標を達成するための措置	中期	A	2	B	8	C	0	D	0	II	県派遣職員から法人職員への切替を計画的に実施し、法人職員の割合を47.1%にした。	
		年度	A	1	B	9	C	0	D	0			
		中期	A	2	B	8	C	0	D	0			
	(四大・短大共通) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。												
	(1)	組織運営の改善に関する目標を達成するための措置	年度	A	1	B	9	C	0	D	0	II	女性管理職を複数名配置しており、目標を達成している。
			中期	A	1	B	7	C	0	D	0		
			年度	A	1	B	7	C	0	D	0		
	(四大・短大共通) 教職員の行動規範の周知徹底、職員採用方針による採用活動、職員研修等に取り組むことで、概ね計画どおり達成できた。												
	(2)	事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための措置	中期	A	1	B	1	C	0	D	0	I	コピー用紙の購入量を削減し、目標の平均5%減を達成した。
			年度	A	0	B	2	C	0	D	0		
			中期	A	1	B	1	C	0	D	0		
	(四大・短大共通) パーペーレス会議やコピー用紙購入量の削減に取り組み、さらにワークフローシステムを導入するなど、計画どおり達成できた。												
			年度	A	0	B	2	C	0	D	0	II	ワークフローシステムを導入することで、事務手続きの一部について電子申請を開始した。
			中期	A	0	B	2	C	0	D	0		
年度			A	0	B	2	C	0	D	0			
(四大・短大共通) ワークフローシステムを導入して、総務及び経理関連の事務手続きの電子申請を開始し、事務処理の効率化を図り、計画どおり実施した。													

2	財務内容の改善に関する目標を達成するための措置	中期	A	0	B	8	C	1	D	0		
			年度	A	0	B	8	C	1	D	0	
			A	0	B	0	C	1	D	0		
		(四大)	予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。									
		中期	A	0	B	1	C	0	D	0		
		(短大)	予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。									
		A	0	B	7	C	0	D	0			
		(四大・短大共通)	予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。									
		年度	A	0	B	0	C	1	D	0		
		(四大)	予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。									
年度	A	0	B	1	C	0	D	0				
(短大)	予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。											
A	0	B	7	C	0	D	0					
(四大・短大共通)	予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。											

			外部研究資金等の自己収入の増加に関する目標を達成するための措置										
			(1)										
中期 年度	A	-0	B	4	C	1	D	0	【四大・短大共通】 新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、施設等の外部貸出に組み、概ね計画どおり達成できた。		II		【四大・短大共通】 「会津大学学生生活支援基金」を設置し、寄附金の募集を開始した。また、この基金を活用し、コロナ禍における学生支援のため、現金やプリペイドカードの支給等を実施した。
A	0	B	4	C	1	D	0						
								A	0	B	0	C	1
A	0	B	3	C	0	D	0						
								A	0	B	0	C	1
A	0	B	1	C	0	D	0						
								A	0	B	3	C	0
A	0	B	0	C	1	D	0						
								A	0	B	1	C	0
A	0	B	3	C	0	D	0						
								A	0	B	0	C	1
A	0	B	1	C	0	D	0						
								A	0	B	3	C	0
A	0	B	0	C	1	D	0						
								A	0	B	1	C	0
A	0	B	3	C	0	D	0						
								A	0	B	0	C	1
A	0	B	1	C	0	D	0						
								A	0	B	3	C	0
A	0	B	0	C	1	D	0						
								A	0	B	1	C	0
A	0	B	3	C	0	D	0						
								A	0	B	0	C	1
A	0	B	1	C	0	D	0						
								A	0	B	3	C	0
A	0	B	0	C	1	D	0						
								A	0	B	1	C	0
A	0	B	3	C	0	D	0						
								A	0	B	0	C	1
A	0	B	1	C	0	D	0						
								A	0	B	3	C	0
A	0	B	0	C	1	D	0						
								A	0	B	1	C	0
A	0	B	3	C	0	D	0						
								A	0	B	0	C	1
A	0	B	1	C	0	D	0						
								A	0	B	3	C	0
A	0	B	0	C	1	D	0						
								A	0	B	1	C	0
A	0	B	3	C	0	D	0						
								A	0	B	0	C	1

(2)	経費の抑制に関する目標を達成するための措置	中期	A	0	B	4	C	0	D	0	II	毎年度、財務レポートを作成し、ホームページで公表した。		
		年度	A	0	B	4	C	0	D	0				
		中期	(四大・短大共通) 財務状況分析や法人会計制度の研修、財務会計システムの評価等を継続することにより、概ね計画どおり達成できた。											
3	自己点検・評価及び情報提供に関する目標を達成するための措置	年度	A	0	B	4	C	0	D	0	II	インボイス制度への対応のため、システム改修等を実施した。		
		中期	A	0	B	6	C	1	D	0				
		年度	A	0	B	7	C	0	D	0				
(1)	評価の実に関する目標を達成するための措置	中期	A	0	B	6	C	1	D	0	II	教員の業務評価結果の反映方法構築について、中期計画を達成することができなかった。		
		年度	A	0	B	7	C	0	D	0				
		中期	(四大・短大共通) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。											
		年度	A	0	B	7	C	0	D	0	II			
		中期	(四大・短大共通) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。											
		年度	A	0	B	4	C	1	D	0				
		中期	A	0	B	4	C	0	D	0	II			
		年度	A	0	B	5	C	0	D	0				
		中期	(四大・短大共通) 法人の自己点検評価等の取組や事務職員等の取組や事務職員等の取組の継続した運用、教員業績評価の見直しを進めることにより、概ね計画どおり達成できた。											
		年度	A	0	B	5	C	0	D	0	II			
		中期	(四大・短大共通) 法人の自己点検評価等の取組や事務職員等の取組や事務職員等の取組の継続した運用、教員業績評価の見直しを進めることにより、概ね計画どおり達成できた。											
		年度	A	0	B	5	C	0	D	0				

	(2)	情報発信の推進に関する目標を達成するための措置	中期	A	0	B	2	C	0	D	0	教育・研究成果、学生・教職員の受賞状況、産学連携、地域貢献等について、積極的に情報発信した。	II	
			年度	A	0	B	2	C	0	D	0			
			中期	(四大・短大共通) 引き続き適切な情報公開に努め、大学の活動を積極的に発信することにより、概ね計画どおり達成できた。									「SLIMの月面着陸」等の研究活動成果等をホームページに掲載した。	II
			年度	A	0	B	2	C	0	D	0			
4		その他業務運営に関する目標を達成するための措置	中期	A	2	B	17	C	1	D	0	II		
			年度	A	3	B	17	C	0	D	0			
			中期	(四大) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。									II	
			年度	A	0	B	3	C	0	D	0			
			中期	(短大) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。									II	
			年度	A	0	B	11	C	0	D	0			
			中期	(四大・短大共通) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。									II	
			年度	A	1	B	5	C	0	D	0			
			中期	(四大) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。									II	
			年度	A	1	B	2	C	0	D	0			
			中期	(短大) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。									II	
			年度	A	1	B	10	C	0	D	0			
			中期	(四大・短大共通) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。									II	
			年度	A	1	B	10	C	0	D	0			

(1)	法令遵守に関する目標を達成するための措置	中期	A	0	B	3	C	0	D	0	法令遵守やハラスメント防止について、継続して取り組む必要がある。
		年度	A	1	B	2	C	0	D	0	
		中期	A	0	B	3	C	0	D	0	
(2)	施設設備や情報通信基盤の整備活用等に関する目標を達成するための措置	中期	(四大・短大共通) 法令遵守等に関する研修を開催し、教職員の理解の向上を図ること等により、概ね計画どおり達成できた。								【四大・短大共通】 図書館のICタグ導入に向け、計画的に準備を進めている。
		年度	A	1	B	2	C	0	D	0	
		中期	(四大・短大共通) 研修会の実施だけでなく、年度初めの部局長会議等、機会を捉えて行動規範の周知徹底を指示したほか、適宜コンプライアンス徹底の注意喚起を図り、計画どおり実施した。								
(2)	施設設備や情報通信基盤の整備活用等に関する目標を達成するための措置	中期	A	2	B	6	C	0	D	0	【四大・短大共通】 図書館のICタグ導入に向け、計画的に準備を進めている。
		年度	A	1	B	7	C	0	D	0	
		中期	A	2	B	2	C	0	D	0	
(2)	施設設備や情報通信基盤の整備活用等に関する目標を達成するための措置	中期	(四大) 情報セキュリティ対策や付属図書館の利用環境整備に取り組むことで、概ね計画どおり達成できた。								【四大・短大共通】 図書館のICタグ導入に向け、計画的に準備を進めている。
		年度	A	0	B	2	C	0	D	0	
		中期	(短大) セキュリティ・インシデントの注意喚起や図書館の狭領域対策に取り組むことで、概ね計画どおり達成できた。								
(2)	施設設備や情報通信基盤の整備活用等に関する目標を達成するための措置	中期	A	0	B	2	C	0	D	0	【四大・短大共通】 施設修繕計画に基づいた施設整備を進めることにより、計画どおり達成できた。
		年度	A	0	B	2	C	0	D	0	
		中期	(四大・短大共通) 施設修繕計画に基づいた施設整備を進めることにより、計画どおり達成できた。								

			A	1	B	3	C	0	D	0			
			<p>(四大) セキユリティ対策や附属図書館の利用環境整備に取り組み、計画どおり実施した。</p>										
			A	0	B	2	C	0	D	0			
			<p>(短大) セキユリティ・インシデントの注意喚起や図書館の狭隘化対策の取組を計画どおり実施した。</p>										
			A	0	B	2	C	0	D	0			
			<p>(四大・短大共通) 施設修繕計画に基づいた施設整備や短大学生寮の生活環境の維持・改善の取り組みを計画どおり実施した。</p>										
			A	0	B	6	C	1	D	0			
			A	1	B	6	C	0	D	0			
			A	0	B	1	C	1	D	0			
			<p>(四大) 教職員及び学生の健康診断受診の呼びかけを行い、未受診者の減少に努めることで、概ね計画どおり達成できた。</p>										
			A	0	B	1	C	0	D	0			
			<p>(短大) 教職員及び学生の健康診断受診の呼びかけを行い、未受診者の減少に努めることで、概ね計画どおり達成できた。</p>										
			A	0	B	4	C	0	D	0			
			<p>(四大・短大共通) メンタルヘルスチェックや、施設・設備の巡回・点検を行うことで、概ね計画どおり達成できた。</p>										
			<p>II</p>										
			<p>【会津大学】 ネットワークシステムの更新や迷惑メール対策等を実施した。</p> <p>【会津大学短期大学部】 学生寮(一箕寮)の生活環境改善のため、床下換気扇の調整等を行った。</p>										
			<p>II</p>										
			<p>【会津大学】 学生の健康診断受診率向上に努めたが、コロナ禍以前の水準までは回復できなかった。</p> <p>【会津大学短期大学部】 学生及び教職員の健康診断受診率は100%となった。</p>										
(3)	健康管理・安全管理に関する目標を達成するための措置	中期 年度											
		中期											

			年度	<p>(四大) 教職員及び四大学生の健康診断受診率を高める取組をほぼ計画どおり実施したが、教職員の再検査受診率は低い結果であった。</p> <p>(短大) 学生の健康診断受診率を高める取組を実施し、学生受診率100%を達成することができた。</p> <p>(四大・短大共通) 教職員のメンタルヘルスチェックを行い、職員の心のケアに取り組むとともに、防災・防犯設備の法定点検や施設・設備の巡回・点検を行うことで、安全管理体制を維持した。</p>	A	0	B	2	C	0	D	0	<p>【会津大学】 学生の健康診断受診率向上の取組みに努めたが、82.4%となった。</p> <p>【会津大学短期大学部】 学生及び教職員の健康診断受診率は100%となった。</p>			
					II											
					<p>(4) 新型コロナウイルス感染症を始めとする重大なリスクに対する措置</p>	<p>中期</p> <p>年度</p> <p>中期</p> <p>年度</p>	A	0	B	2	C	0		D	0	<p>新型コロナウイルス感染症について、教職員・学生へ感染防止対策等の注意喚起を実施した。</p>
							II									
<p>II</p>																
	<p>年度</p>	A	0	B	2	C	0	D	0	<p>(四大・短大共通) 2023年5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことに伴い、これまでの感染症対策を緩和したが、引き続き情報収集と注意喚起を行うことで、計画どおり実施した。</p>						

